第５回JR北海道再生推進会議　議事概要

１．日　時　　平成27年２月５日（木）　　11時00分～13時45分

２．場　所　　JR北海道　本社　８階会議室

３．出席者

(1) 議長・委員　　宮原耕治議長、桶谷治委員、上浦正樹委員、國廣正委員
高橋はるみ委員、高向巌委員、向殿政男委員
吉見宏委員

(2) オブザーバー　　国土交通省　武藤浩国土交通審議官、藤田耕三鉄道局長

(3) JR北海道　　須田征男会長、島田修社長、西野史尚副社長
小山俊幸常務、山口力常務
綿貫泰之総務部長、田畑正信鉄道事業本部副本部長
瀧本峰男総合企画本部副本部長、森雅裕安全推進部長
戸川達雄企画室長、土島一幸駅業務部長
難波寿雄車両部長、土田徳造電気部長

４．議事概要

(1) 社長冒頭挨拶

議事開始の前に社長の島田より、「昨晩極寒の中、深夜の札幌運転所及び手稲駅構内除雪作業等のご視察をしていただき、毎日毎晩、同様な除雪態勢を取りながら安全輸送を確保していることの一端をご覧いただいた。
昨年１月24日に国土交通大臣より事業改善命令・監督命令を受領し、２月４日に当時の安全統括管理者が解任命令を受け、当社は会社存亡の危機に立たされた。その時点から全社を挙げて安全最優先の企業に再生させる取り組みが始まった。
この間、昨年６月12日にJR北海道再生推進会議が発足し、頂戴したご意見・ご助言を踏まえ、７月23日に事業改善命令・監督命令のうち「２．第一歩の改善」を、続いて12月26日に「３．更なる安全確保へ」について国土交通大臣へ報告させていただいた。現在は当社再生のための安全基盤づくりの課題への取り組みを進めている。すぐに成果が出るものばかりではなく、これから３年から５年かけて実施していくが、取り組みの成果がまさに問われている。
今後も、北海道の輸送サービスの担い手、また観光振興含めた地域活性化に貢献する会社、さらに北海道新幹線の担い手として再生存続していくための重要な課題について、引き続き監視し、ご助言をいただきたい。」との主旨の挨拶があった。

議長により議事が開始した。

(2) 経営理念の改訂等について

会社側より社是の順番を「安全輸送に徹します」を第一番目にする社是の見直し、またJR北海道グループ経営理念の改訂、及び社員行動指針の制定等について、前回の議事概要を踏まえ修正した箇所を資料に基づき説明した。

説明の後、委員より以下のような意見、質問が出された。

○　今回の社是、経営理念、行動指針の見直しは、前回までの会議の議論の方向に沿った内容である。

○　社是の順番を入れ替え、一番始めに「安全輸送に徹します」とすることは社員に意識していただく点で大変良いと思う。

(3) JR北海道再生推進会議の提言書について

当社の問題に対する会議としての認識、経営幹部の意識改革、安全に対する対策等についてJR北海道にどのような提言を行うべきか議論が行われた。
委員からは、「連続する事故やインシデント、データ改ざんは、経営判断の誤りの蓄積、風通しの悪い企業風土、経営環境悪化の帰結として発生したもので、一時的なものではない。事故が連続して発生した真因は、構造的な問題がある。」といった意見が出された。

(4) その他（前夜の冬期雪害対策視察について）

○　今回、厳寒期の除雪作業やポイント設備、除雪要員態勢等を視察して、現場の厳しさ、大変さが分かった。
　他のJR各社に比べて大変なハンディキャップを背負っているという、議論の前提をはっきりさせないと、そこには対話が成立しない。甘えでも何でもなく、JR北海道の現状について事実は事実として知ってもらう必要がある。

○　夜中に極寒の厳しい条件の中で行う除雪作業等を道民や利用者に広くご理解いただけるようお知らせしてはどうか。

○　道民は冬期の除雪作業を日々行っており、JR北海道の大変さを分かっているはずだ。JR北海道の冬期の取り組みは、むしろマスコミを含めた道外の方へお知らせすべきである。

○　厳冬期にどのように列車を運行するかについて、除雪作業やポイント設備の保守及び車両の雪害対策に関わる技術等のノウハウを持っているJR北海道は、世界の中でも希有な会社だ。このようなJR北海道が持つ技術やノウハウは、大きく言えば、世界に対して還元していく役割を持ちうると考える。

委員からのご意見及びご質問に対して、会社から次のような考え方を説明した。

○　雪害対策等を広くお知らせする件について、保線関係の業務をパネル展示したように、雪害対策だけではなく当社のいろいろな業務について、どのようにお知らせするのがよいか検討し、まずできるものから始めたい。